

私が薦めるこの1冊

『木育のすすめ』 山下晃功・原知子著／海青社／2008年

推薦者：中山 慎也（出雲科学館教諭）



林野庁によって提唱された「木づかい運動」へ、『木育（もくいく）』が2007年度に加わりました。木育とは「森を育むため」の木材利用に関する教育活動です。温暖化問題など地球環境保護の観点からも、木材は持続可能な循環型資源です。省エネルギーな材料であるにもかかわらず、残念ながら現在では金属やプラスチック製品に取って変わられてしまい、木材使用量が減少しています。だからといって木育の推進によって単に木材の使用量を増加させれば良いというものではなく、本書では木材使用がなぜどのように地球環境に良いのかを理解する必要があることを説いています。さらに、木でもものを作る活動を含めて木材利用が人間の発達上、教育上なぜ良いのかを理解して木育を実施することがとても重要であり、それらが木育の基本理念であると述べられています。

二人の著者は大学の教員養成学部在籍する木育第一人者の老練な男性教授と、社会教育施設で木工指導や企

画展示に奔走する日本初の女性木育コンシェルジュです。木育を広めて行くことを目指して一章：木育と木工について、二章：従来の木材利用普及の問題点、三章：木育のスタート、四章：木育が必要な社会的背景、五章：義務教育と木育、六章：高校・大学・生涯教育における木育、七章：木育に期待される学習効果、八章：木育の今後の方向性、九章：木育学習プログラム、十章：これからの理想的な木育実施のために、と全十章で構成されています。各章十ページ前後でまとめられている中で「五章：義務教育と木育」は二十ページを割いて詳細に述べてあります。

家庭教育・学校教育・社会教育の三位一体化した木育の学習プログラムを作成するためには、学校教育の特に義務教育段階において木育に関連した学習内容がどの学年でどのように記載されているのかを十分に理解しておく必要があります。そのため五章では図画工作科・生活科・理科・技術家庭科などの学習指導要領の内容と木育学習プログラムの関係がわかりやすくまとめられています。木育の推進者は中学校の技術科の教師だけに限りません。小学校や高等学校の教師はもちろん、社会教育に携わる者にも木育の基本理念と実例を学ぶ際の参考になる内容が実例を挙げて具体的に記載してあります。「木育って何」「どうすれば良いの」と興味を持たれた方は是非ご一読ください。

＜全科協事務局から＞ この場をお借りして全科協事務局宛てに頂戴した図書を2冊ご紹介させていただきます。『チリモン博物誌』（きしわだ自然友の会著／幻戯書房／2009年）、加藤祐三『軽石：海底火山からのメッセージ』（加藤祐三著／八坂書房／2009年）。ありがとうございました。